

御所湖随想

H23年4月 No.18

春の花

4月です。湖面の氷もすっかり融けました。北国にとっては待ちに待った春の到来です。日陰にはまだ雪が残っておりますが、景色が何となく和らいで見えます。さっそく御所湖の周りで花を探してみました。



尾入野(おいりの)湿生植物園では、ミズバショウたちの白い姿が見えます。やや雪焼けをしておりますが、徐々に白さが目立つようになるはずです。湿生植物園のメインは‘カキツバタ’。その他に‘スイレン’‘ワスレナグサ’‘アジサイ’などの花も楽しめますし、7月にはホタルの飛翔も見られます。秋には栗ひろいも！

さて、御所湖広域公園でも多少地震の影響はありましたが、何とか4月の開園を迎えることが出来ました。給油に不自由していた時に、久々に自転車で動いてみました。いつもの車から眺める景色とは違って、いろいろな発見がありました。雪が消えていくにつれて多くのフキノトウが顔を出しますし、スイセンの芽も勢いよく伸びだしています。湖岸の木々の芽もかなり膨らんできました。私の同僚には花や葉もない冬場にこの芽(冬芽といいます。)を見て、これは‘エゴノキ’、これは‘ムラサキシキブ’と樹木の名前を教えてくださいました。花が咲けば、ある程度わかるんだけれどなあ…。

前号の「御所湖随想」では、『福寿草の花便りも報じられています。』と他人事のように書きましたが、管理事務所前に‘フクジュソウ’が咲いていました。時々雪のちらつく日もありますが、春の日差しを受けてまばゆく輝いています。岩手県でも野生のものは珍しくなりました。(ここのは植えたものですが。)種から育てると、花が咲くまで5~6年かかるそうです。大切に見守りたいものですね！



4月下旬の桜の頃には、いろいろな木々の花が見られますが、現在湖岸で目立つのは‘オオバマンサク’の黄色い花です。本数は少ないのですが、葉がまだない時期には、印象的な春の花の一つです。

もうすぐ本格的な春！ 御所湖でのんびりと過ごしてみませんか